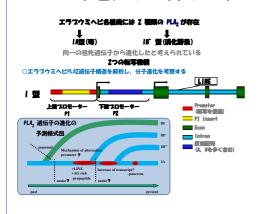
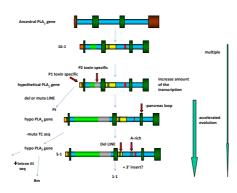
遺伝子の多様化とタンパク質の機能進化

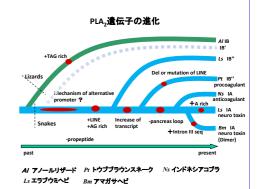
徹、神澤 信行 理工学部 · 物質生命理工学科 茂樹、田宮 安增

生物は単純な構造から複雑な構造へと進化してきた。この過程で遺伝子は重複により数を増やしてきたと考えられている。重複した遺伝子は 様々な機能を持つ遺伝子へ多様化した。これらの遺伝子群をファミリーと呼ぶ。物質生命理工学科の3つの研究室では、ファミリー遺伝子を形成 する酵素タンパク質をモデルとして、「遺伝子の多様化とタンパク質機能の進化」をキーテーマとして、独創性のある研究を生物進化研究分野 で遂行している。 研究成果を報告する。

蛇毒遺伝子の分子進化 徹 田宮







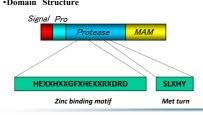
2. チョウザメアスタシンの機能の解明

進化という観点から、チョウザメで新規に見いだされたアスタシン様遺伝子に関して、主に遺伝子 の発現様式を詳細に調べ、先行するイカ・アスタシン様タンパク質の発現と比較することで、その機 能について考察した。

Astacin familyの機能 形態形成 機能 細胞接着 ふ化 生理活性ペプチドの活性化

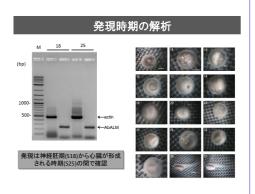
ALSM (Astacin-Like Squid Metalloprotease)

- ・ALSMにはI型、II型、III型のisoform存在
- ・肝臓のみで発現 様々な臓器の局在
- Domain Structure



チョウザメとヤリイカの推定アミノ酸配列の相同性

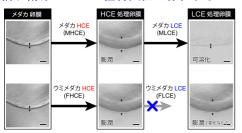




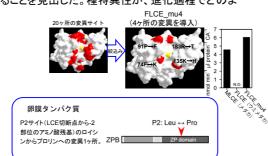
孵化酵素遺伝子の分子進化と機能進化 安増

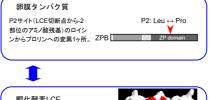
孵化酵素は、孵化時に卵膜を分解するアスタシンファミリーのタンパク質分解酵素である。近年、 ウミメダカとメダカ間で卵膜分解に種特異性があることを見出した。種特異性が、進化過程でどのよ うに生じたかを分子レベルで解明した。

孵化酵素LCEには種特異性が存在する



HCEはメダカとウミメダカどちらの種の卵膜も分解でき、 種特異性はない。一方、LCEは自種の膨潤卵膜しか分解 できず、厳密な種特異性がある。





孵化酵素LCE 74、91、135、183番目の4ヶ所が 種特異的な卵膜分解に関与する。

祖先型孵化酵素を復元して卵膜との分子共進化過程を推測

生化学的な実験により同定 る活性の違いが、推定され た進化過程でのLCEの活性 の変化と良く一致している

孵化酵素と卵膜の分子共進化過程

